

## 注記事項

### (重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
  - 満期保有目的の債券・・・償却原価法(定額法)
  - その他有価証券・・・原価法
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法
  - 番組制作費・・・個別法に基づく低価法
  - 印刷教材等・・・先入先出法に基づく低価法
3. 固定資産の減価償却方法
  - (1) 有形固定資産  
定額法によっております。  
なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。  
また、特定の減価償却資産(放送大学学園会計基準第42)の減価償却相当額については、拠出剰余金の控除項目である損益外減価償却累計額として表示しております。
  - (2) 無形固定資産  
定額法によっております。  
なお、償却年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。
4. 引当金の計上基準
  - (1) 賞与引当金  
役員及び職員の賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。
  - (2) 退職給付引当金  
役員及び職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。  
退職給付債務については、簡便法を用いて計上しております。
  - (3) 学生数等減少準備引当金  
放送大学学園に関する省令第3条(平成15年文部科学省令第39号)の規定に基づき、将来の学生数等の減少に備えて、計上しております。
5. 授業料収益の計上基準  
期間進行基準を採用しております。
6. 業務実施コスト計算書における機会費用等の計上方法
  - (1) 引当外退職給付増加見積額は、自己都合退職金要支給額の当期増加額を計上しております。
  - (2) 国又は地方公共団体の財産の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用の計算は、近隣または類似の賃貸料等を参考に計算しております。
  - (3) 政府拠出等に係る機会費用の計算は、当期首残高 19,856,352,643 円と当期末残高 21,890,573,213 円を加えて2で除したものに一定の利率(決算日における10年もの国債の利回り1.650%)を乗じて算定しております。
7. 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

(貸借対照表関係)

敷金及び保証金、電話加入権、工具器具備品見合いの補助金相当額のうち平成17年度期末残高357,514,908円(平成15年10月1日の新法人移行時残高278,571,334円含む)、工具器具備品見合いの寄附金相当額のうち平成17年度期末残高1,437,501円については、これまでそれぞれ資産見返補助金等、資産見返寄附金として計上していましたが、これらは、拠出剰余金に計上されるべきものであることから、当期において同額を拠出剰余金に振り替えるとともに、当期の取得分から拠出剰余金に計上しております。

また、平成15年10月1日の新法人移行時に資産及び拠出剰余金にそれぞれ未計上となっていた敷金及び保証金並びに敷金及び保証金見合いの補助金相当額16,671,216円については、平成15年度末において資産と利益剰余金(当期末処分利益)にそれぞれ計上し、補助金相当額について、その後、継続して利益剰余金として計上していましたが、当期において同額を拠出剰余金に振り替えるとともに、当期の取得分から拠出剰余金に計上しております。

(損益計算書関係)

当期末処分利益に計上されていた敷金及び保証金見合いの補助金相当額の処理に伴い、前期損益修正損を16,671,216円計上しております。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

資金の期末残高の貸借対照表上の科目

現金及び預金	4,040,085,919円
有価証券	<u>426,414,466円</u>
計	4,466,500,385円
預入期間3ヶ月超定期預金	△ 240,000,000円
合同運用の金銭信託を除く有価証券	<u>△ 240,859,066円</u>
(差引) 資金残高	3,985,641,319円